

6月6日にえひめ女性財団理事長の越智やよい先生をお招きし、デートDV・性暴力防止啓発講座を実施しました。友達と話し合いをしながら、互いに尊重できる関係づくりについて考えました。また、6月11日は第1回人権dayでした。テーマは「ビューティフルネーム」。名前は家族の思いや歴史が込められ、その人の人格を象徴する大切なものです。自分の名前も、自分以外の人の名前にも敬意を持って大切に扱いましょう。

## 第1回 人権 day

2025.6.11



本校のALT オーティ先生は南アフリカ出身です。先生のフルネーム (Otsile Moditi Sithole) をカタカナで表記すると「オツイレ・モディティ・シンゾーレ」です。発音をカタカナで正確に表すのは大変難しく、姓は「シンゾーレ」よりも「セトレ」、と表記したほうが、正確な発音に近いとのこと。ファーストネームの「オツイレ」は「She has arrived. (彼女は到着した)」という意味で、ミドルネームの「モディティ」は母方の曾祖母の名前だと話してくれました。名前には家族の思いや歴史が込められ、その人のアイデンティティを表す大切なものだと言えます。

国や文化によって名前に関する習慣や考え方は様々です。例えば、ミャンマー人は姓を持ちません。「アウンサンスーチー」は全て個人の名前です。また、名付ける時には、生まれた日の曜日を表す音を入れるルールがあり、その人が何曜日に生まれたかが分かります。姓がないので、結婚や離婚で名前が変わることがありません。

ハンガリー人は、ファーストネームを公的な命名リストから選びます。その結果、多くのハンガリー人は伝統的な名前を持っています。ハンガリーの女性は結婚すると夫の名に ne (ネー) という接頭辞を付け、ファーストネームさえも失くして「～の夫人」を正式名にできます。誰の妻であるかというステータスが重要な意味を持っていた時代の名残のようです。現在は7つのパター

## 皆さんの感想から

### <講話について>

- ☆ 講演を聞いて、相手に自分の思っていることをきちんと伝えることが大事だと分かりました。そのためには、自分の気持ちに正直になり、相手のことも尊重する姿勢が必要だと感じました。
- ☆ 今日のお話を聞いて互いの距離感を見つめなおすいい機会になりました。
- ☆ ひとりひとりにバウンダリー（境界線）があり、恋人同士だけでなく友人同士にもあると知りました。自分も相手も不快な思いをさせない自己主張をできるようにしていきたいと思いました。
- ☆ You メッセージではなく、I メッセージで思いを伝えていこうと思いました。弟に You メッセージをよく使っているので気を付けようと思います。
- ☆ 講演を聞いて、恋人同士でも適切な距離を保つことが大切だと分かりました。長く続いている恋人たちは、相手に踏み込みすぎないように気を付けているのかなと思いました。
- ☆ 性暴力は身近で起こりうることだと知り、他人事と思わず、危機感を持って交流していこうと思いました。

### <人権 day について>

- ☆ 名前は自分のアイデンティティを表すものだと知り、自分の名前に込められた意味や思いについてもっと知りたくなりました。
- ☆ 結婚前の姓を名乗れるように法改正されたらいいと思いました。夫婦の間でどちらの姓にするか、どちらとも自分の姓のままでいるかを話し合えるようになればいいと思いました。
- ☆ 選択的夫婦別姓は授業でも習いましたが、日本では結婚したら女性の姓が変わってしまうことがほとんどなので、多様性が尊重されるようになったらいいなと思いました。
- ☆ ミャンマー人は姓を持たないと聞きびっくりしました。名前に生まれた日の曜日を入れるのは面白いな、と思いました。
- ☆ 岸田さんの妻、裕子さんの個人名が省かれていた話は、自分なら少し嫌だなと思いました。
- ☆ 個人の価値観に合わせて選択できるように変化していることを知り、自分らしく生きられるように変わってほしいと思いました。

※皆さんのコメントは、そのまま載せています。